



日本統計学会 会報 2021.01.30 No. 186

発行— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—山下 智志 (理事長) / 伊藤 伸介 (庶務理事)
小池 祐太 (広報理事) / 明石 郁哉 (広報委員)
鎌谷 研吾 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|---|
| 1. 巻頭随筆：統計的機械学習に触れて感じたこと
……………藤澤洋徳… 1 | 7. JDCat をご存知ですか？ ……………廣松 毅… 9 |
| 2. 2020年度統計関連学会連合大会の報告
……………藤野友和・山本義郎・富田 誠… 3 | 8. 2021・2022年度代議員選挙結果
……………明石郁哉・田上悠太… 11 |
| 3. 2021年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報)
……………久保田貴文・西井龍映・坂本 亘… 7 | 9. 理事会・委員会報告(2020年10月24日開催)… 11 |
| 4. 第15回日本統計学会春季集会のお知らせ(第一報)
……………山下智志・稲葉由之・小山慎介ほか… 8 | 10. 博士論文・修士論文の紹介…………… 13 |
| 5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集
……………山下智志… 8 | 11. 新刊紹介…………… 13 |
| 6. 統計検定センターの令和2年度「大内賞」受賞に
ついて……………赤平昌文… 9 | 12. 受賞紹介…………… 14 |
| | 13. 教員公募…………… 14 |
| | 14. 学会事務局から…………… 14 |
| | 15. 投稿のお願い…………… 15 |

1. 統計的機械学習に触れて感じたこと

藤澤 洋徳 (統計数理研究所)

AIブームが起こり、データサイエンスの時代が到来しました。そこには、機械学習の急速な発展があります。特に深層学習は目立っています。今回、巻頭随筆にあたって、統計業界の中で機械学習寄りの方に書いて頂こうという方向で、私が指名されたようです。そこで、統計業界と機械学習との関わりを、主に「統計的機械学習」を通して考えながら、思っていることを書いてみたいと思います。企業の方や若手へのメッセージも含めました。

【ビッグデータ時代と統計的機械学習】

2000年頃から、コンピュータの性能が飛躍的にアップし、データサイズも巨大になりました。データ解析が行いやすくなったことは、統計業界には朗報

だったと思います。同時に、統計業界にネガティブな面もありました。統計科学という学問は、もともと、データサイズがそこまで大きくない場合に、データがもつ情報を最大限に発揮させることを指向していたからです。

データサイズが巨大になると、標本サイズも共変量サイズも飛躍的に増え、複雑なモデルを使いたくなり非線形度が増します。結果的に、推定時の計算量も増え、推定後モデルの安定性も気になります。それらの問題への対処が、統計科学が優先している推測などよりも、優先されてきます。統計科学は、ビッグデータに合わせて発展する必要があったと思います。

その発展の一つが「統計的機械学習」だと思

ます。統計科学のエッセンスを抜き出して、統計科学が重視していた推測の正確さよりも、ビッグデータに対して「早く」「安定的に」データ解析の結果を出力することに注意を傾けています。その目的を達成するために、「統計科学」と「最適化（アルゴリズム）」の技術を組み合わせたのは、必然であったと思います。

特に、統計的機械学習の一つであるスパース・モデリング（代表はLASSO）は、統計科学で馴染みの深い罰則付き法です。ただしL₁罰則のため、最適値を得るためにアルゴリズムに少し工夫が必要で、加えて、ビッグデータ用に計算量の観点からさらに工夫が必要になるところが、それまでの統計科学と違います。

【企業への統計的機械学習の薦め】

データと対話する発想が強い統計科学から見ると、機械学習は予測力重視が強過ぎて理解しにくい部分もあります。ある民間業界では、AIブームに乗って動いていたのに、結果的に統計科学に戻っているという話まで聞きました。（古典的な）統計的データ解析が主流だった企業にとっては、機械学習の理解はハードルが高すぎる部分があることも事実だと思えます。

（古典的な）統計的データ解析を行っている企業で、機械学習を使いたいと考えられている企業は、まずは統計的機械学習を試みられてはいかがでしょうか。統計的機械学習は、従来の統計科学をベースに理解を進めることができ、かつ、従来法では得られないタイプの結果を得ることもできます。

ここで、藤澤が関わった最近の研究について、簡単に紹介させていただきます。東芝との共同研究で、現場のデータから動機を得た研究です。一つは、欠測割合が非常に高いデータへの対処です。現場のデータを見ないと、90%もの高欠測の設定の必要性は考えにくいと思います。そのような場合でもスパース・モデリングを効率的に行えるようにした手法としてHMLassoTM（Lasso with High Missing Rate）を開発しました。これはソフトウ

ェアも公開しています。また、現場で行われている品質管理の流れに合わせて、過去に蓄積された結果や現場の知見を効率的に利用（転移）するためのデータ解析手法としてTransfer Lassoを開発しました。これらの結果は人工知能トップ国際会議IJCAIとNeurIPSに受理されました。（現場のデータに対しての面白いデータ解析の話もあるのですが、どれも企業秘密で話せないのは残念です。）

数年前に日本アクチュアリー会の例会で「統計科学と機械学習の違いについて」という講演をさせていただきました。同様の内容で、他の業界でも話させていただきました。統計的機械学習から動くというのは、（古典的な）統計的データ解析を主流にしていた企業へのメッセージでもあります。

【IBIS：機械学習の研究集会】

日本では、情報論的学習理論ワークショップ（IBIS）という機械学習の研究集会があります。そこには多くの企業が参加して発表もされています。ポスター発表であるため、気楽に発表して密に議論しやすい雰囲気があるからだと思えます。企業の方は、企業のポスター発表をご覧になると、機械学習の導入の仕方が参考になることも多いのではないかと思います。統計業界でそのまま発表されてもおかしくない講演も多いので、理解しやすい発表も多いと思えます。

統計関連学会にもIBISにも参加される人は、現在ではある程度の数があります。統計業界の若手にはIBISにもぜひ参加してみたいと思います。企業がどのようなデータ解析を行っているのかを目の前で見て「躍動感」を感じることは、非常に刺激になると思います。また、統計科学の周辺領域を感じることで、「統計科学」という学問の長所や短所などの理解が、比較により進みやすいと思えます。

ここで、本題とは少しずれますが、個人的体験の話を追加します。藤澤は、2000年代に、ゲノムデータに関して異分野融合で研究を進めていま

た。そのとき、外れ値が容赦なく多く観測されるのを見て、外れ値の割合が大きい場合のロバスト統計という研究テーマを数理的に考察するきっかけを得ましたし、ゲノムデータを主たるターゲットとして提案された Elastic Net や positive FDR を知ったときの感動は、現場のデータとの絡みもあり、より大きいものがあつたと思います。藤澤にとっては、外との触れ合いは、統計科学の研究において、研究への動機・研究時の高揚感・研究本体の深みなどに繋がっています。

【おわりに】

データサイエンスブームによって、欧米のように、日本の統計業界ならびにその周辺が、バランスよく発展して、より楽しい業界になると良いなと、心から思っています。

この原稿を書くにあたって多くの方からコメントを頂きました。原稿は大きく改良されました。本当に心から感謝の気持ちで溢れています。

2. 2020年度統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 藤野 友和 (福岡女子大学)

実行委員長 山本 義郎 (東海大学)

プログラム委員長 富田 誠 (横浜市立大学)

1. 大会概要報告

藤野 友和 (福岡女子大学)

2020年度統計関連学会連合大会は、2020年9月8日(火)～12日(土)に統計関連学会連合に所属する6学会(応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会)の主催により開催されました。8日はチュートリアルセッションと市民講演会が、9日～12日は本大会が行われました。当初は富山市での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、オンラインでの開催となりました。

昨年に引き続き大会開催期間を5日間で行いましたが、大きな問題もなく無事終了でき、大変嬉しく思います。参加者数は市民講演会が178名、チュートリアルが335名でした(※Zoomのログにおけるユニークメールアドレス数を集計)。また、本大会参加登録者数は935名でした。講演件数は282件(キャンセルを除く)にのぼり、今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は、プレナリーセッション1件、特別企画セッション2件、企画セッション85件(ソフトウェア・デモンストレーションセッション2件を含

む)、一般セッション156件、コンペティションセッション38件でした。

今回の大会が無事に終了し、また大会の円滑な運営を行うことができましたのも、ひとえに関係者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、参加者の皆様に御礼を申し上げます。連合大会は今回で19回目を迎え、運営のノウハウも少しずつ蓄積されていますが、今年度も委員の負担軽減のため、一部の事務局業務について外部委託を行いました。今回から新たな学会運営のためのウェブサービスを導入したため、ご不便な点などもあつたかと思えます。6学会の会員の皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。最後に、岩崎組織委員長、山本実行委員長、飯塚同副委員長、富田プログラム委員長、坂本同副委員長、久保田運営副委員長をはじめ、ボランティアで活動してくださいました、実行委員、プログラム委員および運営委員の皆様、東海大学、福岡女子大学のアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

2. チュートリアルセッション・市民講演会報告

富田 誠 (横浜市立大学)

今年度の連合大会も例年と同様にチュートリアルセッションから始まりました。今回は、9月8日(火)の午後にオンライン会議システム Zoom にて「機械学習の数理100問—統計学の使い方より、本質を見抜く力—」というテーマで3時間のセッションが行われました。本セッションでは、藤野友和准教授(福岡女子大学)をオーガナイザーとして、鈴木讓教授(大阪大学)が、2020年8月に刊行されたシリーズ3、4冊目に相当する「スパース推定の機械学習への応用」のエッセンスを中心として、線形回帰、一般化線形回帰、グループ Lasso、行列分解、主成分分析、グラフィカル Lasso について詳細に講義されました。

チュートリアルセッションに引き続き、オンライン会議システム Zoom にて1時間半の市民講演会が行われました。市民講演会では、毎年、様々な分野で統計学を活用して活躍されている方々に多岐にわたる内容でご講演いただいています。今年度は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局ビッグデータチーム参事官補佐 宇野雄哉様をお招きして「RESAS 及び V-RESAS を活用した地域経済分析の新潮流」というタイトルでご講演いただきました。本講演会では、RESAS や V-RESAS の利活用方法のほか、RESAS を含むデータ分析が地方公共団体の政策立案現場でなかなか普及しない理由、データ分析人材を育てるための教育の在り方などについて紹介されました。

最後に、チュートリアルセッションと市民講演会の開催に際して、ご講演を快くお引き受けくださった2名の先生方に感謝申し上げます。

3. 企画セッション報告

石岡文生 (岡山大学)・富田誠 (横浜市立大学)

連合大会2日目の9月9日(水)午後に、プレナリーセッションが開催されました。今年度のプレナリーセッションは、連合大会の国際化をさらに推進するため、統計数理研究所の協力のもと、世界的に著名な研究者として赤池メモリアルレク

チャー賞受賞者を招聘しての講演が企画され、John Brian Copas 教授 (Warwick 大学名誉教授) に「Some of the Challenges of Statistical Applications」というタイトルでご講演いただきました。その他に本大会ではソフトウェア・デモンストレーションセッションを含む22件の企画セッションが開催されました。今回開催された企画セッションのセッション名とオーガナイザー(敬称略)を以下に示します。

(01) “Theory and Practice of Surveys” supported by JSPS KAKENHI for JSD (西郷 浩 (早稲田大学))

(02) 医療におけるデータ駆動型科学 (ヘルスデータサイエンス) の実践 (手良向 聡 (京都府立医科大学), 山本景一 (和歌山県立医科大学))

(03) 日本計算機統計学会 企画セッション「生命科学・材料科学におけるデータサイエンスの最前線」(川野秀一 (電気通信大学), 廣瀬 慧 (九州大学))

(04) “Information Criteria in Data Science” supported by JSAS and JSPS KAKENHI for JSD (Yasumasa Matsuda (Tohoku Univ.))

(05) 確率過程の統計と YUIMA パッケージ (鎌谷研吾 (大阪大学))

(06) 応用統計学会学会賞授賞式・受賞者講演 (姫野哲人 (滋賀大学), 青木 敏 (神戸大学))

(07) スポーツデータサイエンス (酒折文武 (中央大学))

(08) アクチュアリアル・サイエンスと統計科学 (清水泰隆 (早稲田大学))

(09) 接合関数 (コピュラ) の理論と応用 (吉羽要直 (東京都立大学))

(10) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」(田栗正隆 (横浜市立大学), 船渡川伊久子 (統計数理研究所), 伊藤陽一 (北海道大学病院))

(11) アジアの公的ミクロ統計の活用 (馬場康維 (統計数理研究所))

(12) 地震ビッグデータ解析の最前線 (長尾大道 (東京大学), 加藤愛太郎 (東京大学), 矢野恵佑 (統計数理研究所))

(13) 公的統計におけるデータ補正と利活用の新展開 (川崎 茂 (日本大学経済学部), 山下智志 (統計数理研究所), 伊藤伸介 (中央大学経済学部))

(14) 初中等から大学・社会人に至る数理・データサイエンス・AI教育の実践的課題と展望 (竹内光悦 (実践女子大学), 藤井良宜 (宮崎大学), 渡辺美智子 (慶応義塾大学))

(15) 大規模データにおける匿名加工とプライバシー保護をめぐる (佐井至道 (岡山商科大学), 星野伸明 (金沢大学), 伊藤伸介 (中央大学))

(16) 日本分類学会企画セッション (栗原考次 (岡山大学), 富田 誠 (横浜市立大学))

(17) 人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー—データカタログの整備— (廣松 毅 (日本学術振興会), 前田幸男 (日本学術振興会), 伊藤伸介 (日本学術振興会))

(18) 人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー—データの保存と共有— (廣松 毅 (日本学術振興会), 前田幸男 (日本学術振興会), 伊藤伸介 (日本学術振興会))

(19) 日本計量生物学会シンポジウム「評価項目の大小関係に着目して治療効果を評価する統計手法」(坂巻顕太郎 (横浜市立大学))

(20) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演および会員総会 (安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構), 五所正彦 (筑波大学), 田栗正隆 (横浜市立大学), 山本英晴 (中外製薬))

(21) ソフトウェア・デモンストレーションセッション

(22) 日本統計学会各賞授賞式, 日本統計学会各賞受賞者記念講演 (山下智志 (統計数理研究所))

4. コンペティションセッション報告

坂本 亘 (岡山大学)

今年度は, 9月9日(水)から9月11日(金)の3日間にわたって8つのコンペティションセッションが設けられました. 全部で39件の発表申込がありましたが, 会員資格のない方の申し込みが1件, 発表者による取り下げが1件あり, 審査対

象となったのは37件でした.

審査では, 今年度もこれまでと同様に, 研究内容とプレゼンテーションの双方を評価対象としました. 限られた時間で, 専門外の人に対して, いかに自分の研究内容を報告するかということが重要な評価項目です. 原則として8名の審査員が審査を担当し, 各発表に対してA(4点)~E(0点)の評価を与えました. 全審査員のスコアの単純平均により順位をつけ, 最優秀報告賞と優秀報告賞を決定しました.

選考の結果, 最優秀報告賞1件, 優秀報告賞5件が選ばれ, 9月12日(土)の12:15からオンラインにより表彰式を執り行いました.

最後に, 審査員および座長をお引き受けいただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げるとともに, ご発表いただいた方々の研究が今後益々進展することを願っております.

今年度の表彰者は下記の通りです.

最優秀報告賞 (1件)

石曾根 毅 (明治大学)

「時空間高次元データに対するリアルタイムな状態空間モデル推定」

優秀報告賞 (5件)

佐藤 寛司 (東京大学)

「再生核ヒルベルト空間上の非凸最適化問題に対する勾配ランジュバン力学の収束誤差解析」
嶋村 海人 (NTTアドバンステクノロジー株式会社, 電気通信大学)

「ベイズスパースモデリングに基づくネットワークlassoによるマルチタスク学習」

陳 いつ (東京大学)

「Fisher-Bingham分布の規格化定数の計算とパラメータの最尤推定」

辻 和真 (東京大学)

「変動指数Besov空間の回帰問題に対する深層学習の推定誤差解析」

吉川 剛平 (電気通信大学)

「クロネッカー積に基づく共分散構造を用いたテンソル共通成分分析」

5. コンペティションセッション受賞者の言葉 最優秀報告賞

石曾根 毅 (明治大学)

この度はコンペティションセッションにおいて最優秀報告賞を頂き、大変光栄に存じます。審査を担当して頂いた先生方、企画・運営をして下さった関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。また、指導教員の中村和幸先生をはじめとした日頃から指導して下さる先生方、ならびに家族や友人にも、感謝致します。

本報告では、高次元時空間データに対してリアルタイムに状態空間モデルを推定する手法としてLSLOCKを提案しました。局所的な空間一様性というアイデアを取り入れることにより、パラメータ推定を安定化し、時空間局所的な遷移構造を捉えられるようになりました。また、リアルタイム性をキーワードとして掲げ、既存手法に比べて実行時間を大幅に削減することに成功しました。まだ幾つか課題が残っていると思いますので、手法の精錬を図っていきたくと考えています。

今回の受賞を励みに、今後も研究に励んでいきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

優秀報告賞

佐藤 寛司 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて、優秀報告賞を頂き、大変光栄に思えます。企画および運営をされた先生方、審査にご参加くださった先生方、卒業研究のご指導をくださった鈴木大慈先生をはじめ、研究を支えてくださった皆様に感謝いたします。

本発表では、勾配ランジュバン動力学と呼ばれる確率的勾配法の亜種によって、一定の条件下で無限次元空間でも大域最適化が可能であることを報告しました。本研究は、確率的勾配法がパラメータ数の大きなニューラルネットワークの最適化に対しても高性能であることの一つの解釈となります。

嶋村 海人

(NTTアドバンステクノロジー株式会社、
電気通信大学)

この度は優秀賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思えます。学会関係者の方々ならびに、指導教員である川野先生をはじめ研究発表にご助力いただきました皆様に深く感謝いたします。

本報告では、サンプル毎にモデルを仮定しサンプルのグループと予測モデルの推定を同時に実行するマルチタスク学習問題において、変数選択も同時に実施する研究に関する新規手法の提案を行いました。従来手法ではモデルの推定精度に大きく影響を与えるサンプル間の関係の決定が困難であることを指摘し、ベイズスパースモデリングによるアプローチでサンプル間の関係を推定する手法を提案しました。この手法により、従来よりも分析対象の領域を拡大できることを数値実験によって確認しました。

今回の受賞を励みに、今後も精進していく所存です。また、社会人博士として受賞できたことを弊社の内外にアピールすることで、後継の育成ならびに更なる研究の発展に貢献したいと考えております。

陳 いつ (東京大学)

このたびはコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き、大変ありがとうございます。企画および運営をされた先生方、審査にご参加くださった先生方に深く感謝いたします。またこの発表の元となった卒業論文の指導教官であり学会参加をサポートしてくださった田中健一郎先生をはじめ、研究を支えてくださった研究室の皆様に心より感謝申し上げます。

本発表ではFisher-Bingham分布の規格化定数の高速な数値計算法と、この手法を用いた最尤推定の手法を提案し、またこれらを用いてSVAEの潜在空間に応用しました。提案手法の強みは高速か

つ高精度だけでなく、高次元でも計算が可能である点にあります。

今回の受賞を励みに、今後もより一層研究に励んでいこうと思います。ありがとうございました。

辻 和真（東京大学）

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞をいただき、大変光栄に思います。例年とは異なる状況の中で大会の開催・運営をしてくださった関係者の皆様、並びにこの発表の元となる卒業論文の執筆時からご指導いただきました鈴木大慈先生をはじめとする研究に携わってくださった先生方に心より御礼申し上げます。

本研究では変動指数 Besov 空間という入力的位置によって滑らかさが変わる関数空間を推定対象のクラスとして、深層学習の変動指数 Besov 空間に対する近似誤差および推定誤差を解析することで深層学習の適応性を考察しました。また、適応性に着目し、深層学習の線形推定量に対する優位性を示しました。

今回の受賞を励みに研究に日々邁進したいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお

願いたします。

吉川 剛平（電気通信大学）

このたびは、コンペティションセッションにおきまして、優秀報告賞をいただき大変光栄に存じます。まず、このような機会を与えてくださいました運営関係者、ならびに講演を聴きに来てくださった皆様方に厚く御礼申し上げます。また、常日頃よりご指導いただきました電気通信大学の川野秀一先生には、この場をお借りして感謝申し上げます。

本報告では、クロネッカー積に基づく共分散構造を導入することで、共通成分分析をテンソルデータ解析手法として拡張いたしました。また、パラメータ推定に関して、初期値の選択についての理論的な結果を導出し、非凸最適化問題を効率的に解くアルゴリズムも提案いたしました。

今回の受賞を糧とし、微力ながらも統計学の発展に貢献できるように、日々精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いたします。

3. 2021年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

運営委員長 久保田貴文（多摩大学）

実行委員長 西井 龍映（長崎大学）

プログラム委員長 坂本 亘（岡山大学）

1. 2021年度統計関連学会連合大会について

2021年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の主催により、下記要領にて開催いたします。

開催場所は長崎大学文教キャンパスを予定していますが、コロナ禍の状況を確認しつつ、開催方式については現在検討中です。3月上旬発行予定の第二報にてご案内の予定です。

日程：2021年9月5日（日）－9日（木）

9月5日：チュートリアルセッションおよび市民講演会

9月6日－9日：本大会（一般講演、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなど）

2. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション（4月上旬に締め切りを設定予定）、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションな

どを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会 (kikaku2021(at)jfssa.jp) までお知らせください ((at)を@に置き換えてください)。企画セッションの公募は第二報(3月上旬発行予定)で、各種企画は第三報(5月上旬発行予定)で、それぞれお知らせする予定です。

3. 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込、報告集原稿提出は今後開設するホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬(予定)とし、それ以降に、報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします。発表を計画されている方は予定に組み込んでいただければ幸いです。確定した期日は、第三報でお知らせいたします。

4. 第15回日本統計学会春季集会のお知らせ(第一報)

山下智志(日本統計学会理事長)

稲葉由之(理事:大会・企画・行事担当)

小山慎介, 田上悠太, 間野修平, 本橋永至(企画・行事委員会委員)

第15回日本統計学会春季集会を下記の要領で開催いたします。

第15回春季集会はオンラインで開催し、口頭発表セッションとポスターセッションを設ける予定です。ポスターセッションではポスター発表(ポスター(必須)と動画発表(任意))を広く募集いたします。ポスター発表の申し込み締め切りは2月中旬を予定しています。ポスターセッションにおける表彰の審査対象は日本統計学会会員(ポスター発表申し込みまでに入会の手続きが完了している方)に限定しておりますので、ご留意をお

願いたします。

口頭発表セッションとポスターセッションの詳細については、第二報(1月下旬を予定)にてお知らせいたします。多数の会員の皆様の参加をお待ちしております。

<日本統計学会第15回春季集会>

- ・期日:2021年3月13日(土)
- ・会場:オンライン(日本統計学会, 統計数理研究所 共同開催)
- ・参加費:無料

5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

山下 智志(日本統計学会理事長)

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

- 第26回 日本統計学会賞
- 第17回 日本統計学会統計活動賞
- 第17回 日本統計学会統計教育賞
- 第15回 日本統計学会研究業績賞
- 第14回 日本統計学会出版賞
- 第35回 日本統計学会小川研究奨励賞
- 第1回 日本統計学会中村隆英賞

いずれも推薦期間は2020年12月7日(月)から2021年3月26日(金)と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ(<https://www.jss.gr.jp/society/prize/>)からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「~賞推薦書在中」と朱書きして下さい。併せて、推薦書の電子ファイル(パスワード保護)を学会事務局宛に電子メールにてお送りくだ

さい。メールの標題には、賞の名称を明記してください。（例：「日本統計学会賞推薦書類」）
不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL&FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

各賞共通の規程並びに各賞個別の概要については、下記の URL をご参照ください。

https://www.jss.gr.jp/wp-content/uploads/prize_boshu2021.pdf（概要）

<https://www.jss.gr.jp/society/rules/>（規定）

<https://www.jss.gr.jp/society/prize/#youshiki>（様式）

6. 統計検定センターの令和2年度「大内賞」受賞について

赤平 昌文（統計検定センター長）

一般財団法人統計質保証推進協会 統計検定センターが、統計検定を創設し、明示的な評価基準による検定試験を通して、適切な指針に基づく学習機会を社会に提供し、統計教育の推進と統計関連人材の育成に貢献するとともに、統計作成者の評価を通じて公的統計の質保証に貢献したことにより、大内賞委員会から令和2年度大内賞を贈られました。大内賞は、戦後における我が国の統計の再建に政府の統計委員会委員長として尽力した大内兵衛博士の業績を記念して、昭和28（1953）年度に設けられ、我が国の統計の進歩に貢献した個人、団体等を顕彰するもので、統計界の最高栄誉とされています。

授賞式は、例年、11月中旬に開催される全国統

計大会において行われていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、同大会の開催が中止となりました。伝達式が2020年11月12日に公益財団法人統計情報研究開発センター（大内賞の主催団体）において行われ、主催者側の木原光資理事長から統計検定センター長の代理として出席した一般財団法人統計質保証推進協会的美添泰人理事長に表彰状、記念のメダルおよび副賞（20万円）が手渡されました。受賞できたのは、後援していただいている5つの府省の協力とともに日本統計学会会員を中心とする多くの方々の活動が評価されたものと、関係者ともども、感謝しています。

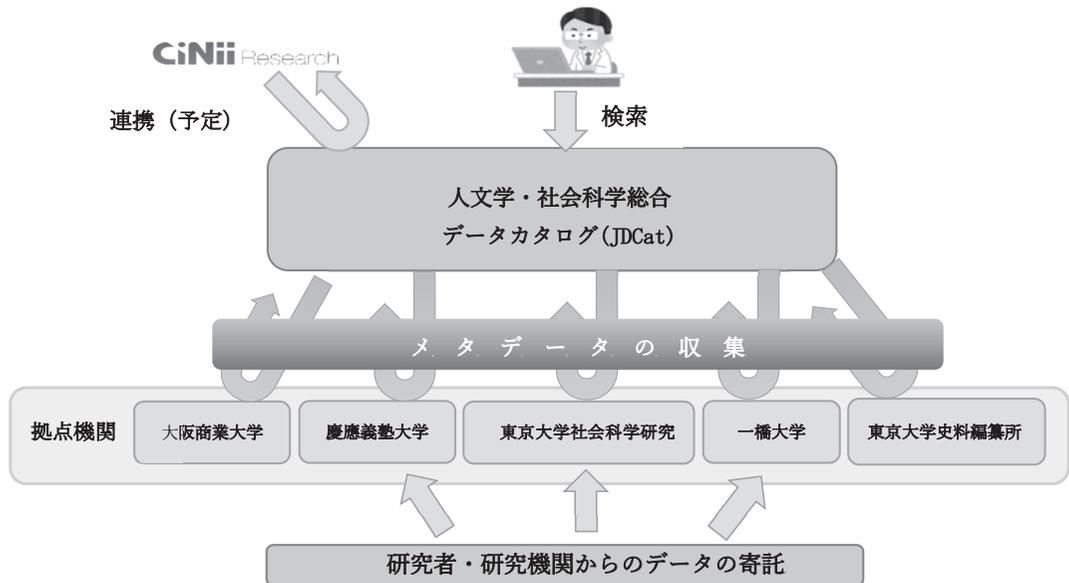
7. JDCat をご存知ですか？

廣松 毅（日本学術振興会）

「ジェイ・デイ・キャット」と読みます。会員の方々には目新しい、耳慣れない言葉かと思います。これは Japan Data Catalog for the Humanities and Social Sciences（人文学・社会科学総合データカタログ、略称：人社データカタログ）の愛称です。このデータカタログは独立行政法人日本学術振興会（学振）が2018（平成30）年度から「人文

学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」として行っている活動の成果の一部です。

この事業は「人文学・社会科学研究に係るデータを分野や国を超えて共有・利活用する総合的なデータインフラストラクチャー（データ基盤）を構築することにより、研究者がデータを共有しあ



◇人文学・社会科学総合データカタログ (JDCat)

い、国内外の共同研究等を促進する」ことを目指しています。またこの事業では、JDCatの作成以外に「人文学・社会科学におけるデータ共有のための手引き」の策定、オンライン分析システムの構築、そしてそれらの広報活動を行っています。

JDCatの概念図（ポンチ絵）は上図の通りです。

実は2019年度統計関連学会連合大会では一般講演：「データの利活用」の中で、また2020年度大会では企画セッション（2CPM1および2CPM2）を設けて活動報告を行っています。この度学振のホームページに2020年度大会における講演資料を他の関連資料とともに公開しましたので、紹介を兼ねてこの欄に投稿しました。以下のURLをご覧ください。

<https://www.jsps.go.jp/j-di/jigyo.html>

なお、2019年度大会の講演資料はこの事業の紹介が主であり、2020年度大会の資料と重なる点が多いことから割愛しました。また公益財団法人統

計情報研究開発センター（Sinfonica）が刊行している統計と情報の専門誌 ESTRELA の2019年11月号（No.308）に投稿した本事業の取組に関する特集記事については、統計情報研究開発センターから特別に許可をいただき再掲しました。記して感謝申し上げます。

今後の活動として、各拠点機関が作成したメタデータのハーベスト（コンピュータによる自動的な収集）試験と不具合の修正、上記の「手引き」の最終校閲と早期の公表を予定しています。

一般に、研究者の間でもデータ管理ということ自体が必ずしも馴染みのない現状にあって、会員の方々に適切なデータ管理の重要性とデータの寄託・共有・利活用の有用性を認識していただき、それらが進むことによって人文学・社会科学分野の研究が国内的にも国際的にもより一層進展することに貢献できればと考えています。

8. 2021・2022年度代議員選挙結果

2021・2022年度選挙管理委員

明石郁哉（東京大学）・田上悠太（早稲田大学）

2020年12月17日（木）、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名（明石郁哉、田上悠太）により、2021・2022年度代議員選挙の開票が行われました。その結果、定款第5条2により、次の34名が選出されました。

会田雅人、青嶋 誠、足立浩平、岩崎 学、大草孝介、大森裕浩、狩野 裕、鎌倉稔成、川崎 茂、川崎能典、国友直人、栗木 哲、栗原考次、西郷 浩、酒折文武、坂本 亘、瀬尾 隆、竹内

光悦、竹村彰通、谷崎久志、椿 広計、富田 誠、中野純司、西山慶彦、樋口知之、廣瀬 慧、前園宜彦、増田弘毅、松井知子、南美穂子、宿久 洋、山下智志、美添泰人、渡辺美智子（以上34名、五十音順）

有権者1349名（正会員1333名及び名誉会員16名）中、投票者数135名、投票用紙延べ記名者数641、うち有効619、同無効56（記入票22、白票34）でした。

9. 理事会・委員会報告（2020年10月24日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時 2020年10月24日（土曜日）

午後1時00分～午後1時33分

場所 統計数理研究所 D508

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：954 1190 4905）

理事の総数 13名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：川崎茂会長、山下智志理事長、加藤昇吾（庶務）、伊藤伸介（庶務）、吉田靖（会計）、青嶋誠（JJSD）、吉羽要直（会誌編集和文）、小池祐太（広報）、稲葉由之（大会・企画・行事）、松田安昌（国際）、菅澤翔之助（国際）、前田忠彦（渉外）、瀬尾隆（渉外）（以上13名、カッコ内は役割分担）

監事：赤平昌文、岩崎学、中西寛子

第1議案 常設委員会における委員の交代について

山下理事長より、資料に基づき、常設委員会における大会委員の交代について説明があり、高部勲氏（総務省）と茂木快治氏（神戸大学）が大会会員に選出されたことが報告された。

第2議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

川崎会長より、資料に基づき、学会賞各賞の候補者推薦と選考委員の構成について報告がなされた。今までの賞に加え、次回より中村隆英賞が新たに加わるということが報告された。

第3議案 社員総会招集の件

川崎会長より、社員総会を以下の通り開催することが提案され、審議の結果、承認された。

1. 日時 2021年3月12日（金）あるいは19日（金）
午後6時00分から
2. 場所 未定（都心での通常開催あるいはオンライン開催（Zoom））
3. 会議の目的事項

（1）社員総会における通常の審議

第4議案 被選代議員会招集について

川崎会長より、被選代議員会を以下の通り開催することが提案され、審議の結果、承認された。

1. 日時 2021年3月12日（金）あるいは3月19日（金）の社員総会終了後午後7時30分頃から
2. 場所 未定（都心開催あるいはオンライン開催（Zoom））
3. 会議の目的事項
（1）会長候補者の選出

(2) 被選理事長の選出

第5議案 会員の入退会

山下理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、承認された。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2020年10月24日（土曜日）

午後1時34分～午後3時35分

場所：統計数理研究所 D508

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：954 1190 4905）

出席：理事13名、監事3名、計16名

川崎茂会長、山下智志理事長、加藤昇吾、伊藤伸介、吉田靖、青嶋誠、吉羽要直、小池祐太、稲葉由之、松田安昌、菅澤翔之助、前田忠彦、瀬尾隆、赤平昌文（監事）、岩崎学（監事）、中西寛子（監事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長より、JJSDの編集状況について報告がなされた。また、2020年10月にJJSDがtransformative journalに登録されることが決定したと報告された。

2. 和文誌編集委員会

吉羽委員長より、資料に基づき、和文誌の編集状況について報告がなされた。また、3名以上の共著文献の参照に関する執筆要項の修正について報告された。

3. 大会委員会

報告事項なし

4. 企画・行事委員会

稲葉委員長より、資料に基づき、第15回日本統計学会春季集会の準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

伊藤委員長より、代議員選挙の管理委員が明石郁哉氏（東京大学）、田上悠太氏（早稲田大学）に決定したことが報告され、投票の日程について説明がなされた。また、日本統計学会が協賛・後援する以下の学術的会合について報告がなされた。

協賛：

電子情報通信学会・情報論的学習理論と機械学習研究専門委員会「第23回情報論的学習理論ワークショップ（IBIS2020）」

後援：

- ・(社)情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会「人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2020）」
- ・統計数理研究所 産学連携シンポジウム「データサ

イエンスの現在と未来を解剖する！～企業向け産学連携シンポジウム～」

- ・日本経済新聞社 Data Society Fes 2020
- ・データビジネス創造コンテスト第12回データビジネス創造コンテスト～Digital Innovators Grand Prix 12 (DIG12)～

6. 広報委員会

小池委員長より、会報185号が10月20日に校了し、予定通り今月末に発行予定であることが報告された。また、学会ウェブサイトのシステム更新が無事に完了したと報告された。

7. 国際関係委員会

松田委員長より、今年12月に台湾にて開催予定だったCSA-JSS-KSS Joint Sessionが来年に延期されたことが報告された。

8. 渉外委員会

前田委員長より、資料に基づき、令和2年度の科研費の交付・執行状況および令和1年度の研究成果公開促進費実績報告書の改訂について報告がされた。また、中西監事より、統計検定の今後の予定について説明がなされた。

9. その他

山下理事長より、日本経済学会連合の評議員として西郷浩会員と坂野慎哉会員（共に早稲田大学）が選出されたことが報告された。また、準会員制度のあり方について、次回の社員総会に向けて意見をまとめていくことが報告された。

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

稲葉委員長より、11月7日に春季集会準備会議を開催し、第15回日本統計学会春季集会の内容について決定することが提案され、審議の結果、承認された。

5. 庶務委員会

審議事項なし

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. その他

審議事項なし

・今後の予定

2020年11月7日(土) 13:00 日本統計学会春季集会
準備会議：オンライン開催 (Zoom)

2021年2月6日(土) 13:00 理事会：オンライン開

催 (Zoom)

2021年3月12日(金) あるいは19日(金) 18:00 社
員総会 (予定)：場所未定

2021年3月12日(金) あるいは19日(金) 19:30 被
選代議員会 (予定)：場所未定

2021年3月13日(土) あるいは20日(土) 第15回日本
統計学会春季集会：オンライン開催 (Zoom)

10. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介
いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得
大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6)
取得年月の順に記載いたします。

博士論文

● (1) 高田正彬 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合
研究大学院大学 (4) Sparse Regression for Correlated

Variables (5) 藤澤洋徳 (6) 2020年9月

修士論文

● (1) 三浦雛 (2) 修士 (海事科学) (3) 神戸大
学 (4) 榎岡母集団におけるマハラノビス二乗距
離に対する漸近不偏推定量の改良 (5) 首藤信通
(6) 2020年3月

11. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の新刊紹介記事を掲
載します。

●藤田岳彦・吉田直広『大学1・2年生のための
すぐわかる統計学』東京図書株式会社, 2020年10
月, 2,600円 (税抜き)

内容紹介：統計学のエッセンスを凝縮した参考
書・演習書。確率及び統計学 (推定, 検定, 回帰
分析等) について, 基本事項の知識を得て, 約
100題の典型的な問題の演習を行う。大学生, 院
生, 仕事で統計学が必要な社会人にも。

●美添泰人・荒木万寿夫・元山斉 共著 / 岩崎
学・西郷浩・田栗正章・中西寛子 共編『スタン
ダード 経済データの統計分析』培風館, 2020年
9月, 2,640円

内容紹介：現実的な経済問題の分析例を多く掲げ,
その結果の解釈を通じて, 経済学分野で用いられ

る統計的手法を身に着けるように書かれた, 経済
データ分析に関心をもつ大学生・社会人の読者向
けの教科書である。

●Bradley Efron・Trevor Hastie 著・藤澤洋徳・井
手剛 監訳・井尻善久・井手剛・牛久祥孝・梅津
佑太・大塚琢馬・尾林慶一・川野秀一・田栗正
隆・竹内孝・橋本敦史・藤澤洋徳・矢野恵佑 訳
『大規模計算時代の統計推論：原理と発展』共立
出版, 2020年7月, 8,800円 (税抜き)

内容紹介：本書は, 統計学が過去60年間にどのよ
うに進化してきたか検証し, 広範囲に俯瞰する。
歴史の順に3部に分け, この分野の発展に影響が
あったトピックスを取り上げ, それぞれの手法的
発展や推論の正当性について説明する。

●北川源一郎『Rによる 時系列モデリング入
門』岩波書店, 2020年12月, 3,800円 (税抜き)

内容紹介：同著者の『時系列解析入門』の改訂版

であり、学習者が学んだ手法を実際のデータを用いてすぐ実践できるよう、統計数理研究所で開発された R パッケージ TSSS の使用法と解析例を多数追加している。

●蟹江幸博 編『新訂版 数学用語 英和辞典 - 和英索引付き』近代科学社, 2020年11月, 4,200円 (税

抜き)

内容紹介: 2013年発行の『数学用語 英和辞典』について昨今の AI・データサイエンスの興隆に合わせ、統計学関連の学術用語を大幅に増強したもの。著名数学者の紹介も1100名まで増やし、人名辞典の機能を精製。

12. 受賞紹介

会員からの投稿による各種受賞の紹介記事を掲載します。

●令和2年度 卓越した技能者 (現代の名工)
受賞者: 樋口知之 (中央大学 理工学部 経営システム工学科)

13. 教員公募

会員からの投稿による教員公募情報を掲載します。

●機関名: 青山学院大学 / 研究分野: 統計学・データサイエンス / 職種: 准教授 / 勤務形態: 常勤

／募集終了日: 2021年3月12日 (金) 必着 / 当該情報を掲載しているページの URL: https://www.aoyama.ac.jp/recruit/economics_01

14. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2020年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(<https://www.jss.gr.jp/fee/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

藤井 亨 会員

入会承認

赤岡佑治, 神谷直樹, 藤山泰成, 中村真人, 華山

宣胤, 東木達彦, 増田幹人, 吉田千鶴, 渡邊隼史
(敬称略)

退会承認

右京芳文, 大野拓行, 川崎洋平, 桑野優子, 小島
平夫, 羽鳥茂, 濱田紘成, 松岡佑知, 松本大吾
(敬称略)

現在の会員数 (2020年11月16日)

名誉会員	16名
正会員	1,392名
準会員	6名
学生会員	67名
総計	1,481名
賛助会員	16法人
団体会員	8団体

15. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると
考えられるものなどについて原稿をお送りくだ
さい。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人など
をお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4)
論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年
月 をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月を
お知らせください。紹介文を付ける場合は100
字程度までとし, 主観的な表現は避けてくだ
さい。

● 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)

できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文
書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致
します。

原稿送付先 :

〒153-8914 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院数理科学研究科

小池 祐太 宛

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp